

短 報

富山・岐阜県境付近における
キバネツノトンボの追加記録 (2)

岩田 朋文

富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

Additional Records of *Libelloides ramburi*
(M'Lachlan, 1875) in Toyama and Gifu
Prefecture, Japan (2)

Tomofumi Iwata

Toyama Science Museum

1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan

1. はじめに

キバネツノトンボ *Libelloides ramburi* (M'Lachlan, 1875) は、富山県では『富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま2012』において絶滅危惧I類と評価されている昆虫である (富山県生活環境文化庁自然保護課, 2012)。県内の記録は、これまでに1944年の婦負郡猪谷 (根来・山内, 2011), 2019年の南砺市 (岩田, 2019), 2020年の南砺市 (岩田, 2021; 月刊むし編集部, 2022) の3例のみが存在する。

筆者は、本種の県内分布調査を継続する中で、2022年に南砺市内の新たな地点で生息を確認したので報告する。併せて、岐阜県白川村内の岩田 (2021) が記録した地点にて追加個体を得たので、同地における継続確認の記録として報告する。なお、本種は富山県の絶滅危惧種であるため、記録地点の詳細な地名は非公開とする。

2. 記録

4♂, 富山県南砺市内, 30. V. 2022, 筆者採集, 富山市科学博物館所蔵, TOYA-Ji-42961~42964; 1♂採集1♀撮影, 岐阜県白川村内 (岩田 (2021) の記録地点と同一), 30. V. 2022, 筆者採集および撮影, 富山市科学博物館所蔵, TOYA-Ji-42965.

3. 記録地点の環境と採集状況

本稿で記録した南砺市の地点は、山間部を流れる河川沿いの道路脇に存在する荒地である。荒地の面積は約2800 m²であり、中央部は砂利が露出し、縁部には草本類が繁茂するとともに数本の木本が生育していた (図

1)。記録個体は、いずれも荒地縁部に生育する草本類上で静止していた (図2)。荒地全体を徒歩で探索したが、確認されたのは本稿で記録した4個体のみであった。



図1 キバネツノトンボが新たに確認された南砺市内の荒地。2022年5月30日撮影。



図2 南砺市内の荒地で確認されたキバネツノトンボ♂。



図3 白川村内の岩田 (2021) が記録した地点で確認されたキバネツノトンボ♀。腹部が肥大している。

岐阜県白川村の地点は、岩田（2021）が記録した2020年5月時点から環境変化は無いように見受けられた。荒地全体を徒歩で探索したが、確認されたのは本稿で記録した2個体のみであった。このうちメス個体は腹部が肥大していた（図3）。

4. 考察

富山県南砺市と岐阜県白川村では、岩田（2019, 2021）と本稿により、本種が複数年に渡って相次いで記録された。記録地点はいずれも同一河川沿いに位置するため、この河川沿いでは今後も別の地点で本種が発見される可能性が考えられる。

岐阜県白川村の地点では、腹部が肥大したメス個体が確認されたため、産卵が行われているものと考えられる。しかし、現時点では成虫が少数確認されているに過ぎないため、本種が定着しているのか、遠方から毎年のように飛来しているのかは判断できなかった。

5. 引用文献

- 月刊むし編集部, 2022. 訂正. 月刊むし, (612) : 55.
- 岩田朋文, 2019. 富山県におけるキバネツノトンボの追加記録. 月刊むし, (586) : 51.
- 岩田朋文, 2021. 富山・岐阜県境付近におけるキバネツノトンボの追加記録. 月刊むし, (610) : 21-22.
- 根来 尚・山内健生, 2011. 富山県の脈翅類. 富山市科学博物館研究報告, (34) : 23-30.
- 富山県生活環境文化部自然保護課, 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま2012, 451p. 富山県生活環境文化部自然保護課.